

## 提言書（案）に対する修正案

### 4. まとめ

プロジェクトチームの報告書においては、現在の西鉄バスの運行に対する補助が同じ水準の公共交通サービスを提供する手段としては、最も経済的であるとされています。一方、本委員会の議論では、現在の公共交通サービスに不便を感じている市民や地域が存在していることへの指摘やコミュニティバスの導入への強い要望がありました。しかし、コミュニティバスの導入にあたっては多額の費用を要すること、導入している市町村のいずれもが赤字運営であり、財政負担が拡大していることなどの問題も指摘されました。そのため公共交通サービスの今後のあり方については、さまざまな視点で慎重な議論が望まれます。

そこで、本委員会としましては、古賀市の公共交通体系については、当分の間、西鉄バスへの補助による運行を継続しながらも、それだけでは補えないニーズ（地域、利用対象者）への対応について、コミュニティバスやおでかけタクシーのような手段などを含めて引き続き検討していくことが望ましいと考えられます。

また、市民ニーズに適応した公共交通体系というものは、まちづくりや地域における人口・年齢構成、市民の生活様式の変化に伴い、その形も変化していくものであります。そのため、今後の西鉄バスの運行改善やコミュニティバスの検討にあたってはアンケート調査や意見交換会などの実施によって地域のニーズを細かに把握し、そのときどきの変化に対応することが重要です。そして、市民、利用者、行政及び交通事業者などの関係者においては、積極的に意見交換の場を持ち、十分な協議を重ね、それぞれの役割を認識し、連携して公共交通の活性化に向けた持続的な取組みを実施することが望まれます。